

アラビア語における人称・呼称の表現とその待遇的使用について

—エジプト人への呼称表現についてのアンケート調査の結果とその分析を中心として—

エシーバ ムハンマド

千葉大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程

1. はじめに

人が使うことばや表現は、その人の大きい社会としての国や地域、あるいは、小さい社会としての家庭、学校、職場などの中での習慣や知識等をもとにしてできているものと考えられる。柴田（1965）は、「ことば」のことを習慣だとし、その習慣というのは、ある条件をもとにある行動をするという関係が安定していることであるとしている。更に、個人の習慣はクセになるということから、ことばは、個人的な習慣ではなく、社会の中での習慣であり、相手がいることを考え、その相手との共通であることが求められるとも述べている。

本稿では、エジプトアラビア語¹における人称・呼称の表現とその方法、そして、それらの待遇的使用と特徴を明らかにするため、アラビア語を母語とするエジプト人を対象にしたアンケート調査を行った。ここでは、その調査内容と結果そしてその分析を紹介する。その前に、日本語の人称・待遇の表現についての顕著な研究、そしてアラビア語の人称詞や呼称表現について紹介する。更に、エジプトアラビア語における呼びかけ表現の代表例を紹介したうえで、アンケート調査の分析を行い、最後にエジプトアラビア語における呼称表現を一例として言語と社会の関係について考えていきたい。

1.1 人称詞と敬語に関する顕著な研究

本稿での「人称詞」は、（私、あなた、彼）のような一般の「人称代名詞」よりも幅広く、人を指す人称代名詞以外の「指示語」も指している。『日本文法辞典』（1981:102）によると、人称とは、話し手が表現する名詞・代名詞が、話し手自身を指すもの（自称詞＝1人称）、聞き手を指し示すもの（対称詞＝2人称）、それ以外の人・物・事などを指示するもの（他称詞＝3人称）と区別する現象であり、その表現手段が人称詞である。

日本語の敬語は、人称と関連付ける文法的現象と捉える説のほかに、語彙と関連付ける語構成的な現象として捉える説がある（山田 1924、金田一 1962）。また、（三輪 2000）では、相手と話し手との間の相対関係、例えば、上下、強弱、親疎、内外などの関係の如何によって、選ばれる人称詞が日本語では大きく変わってくると述べられている。

¹ ここで言う「エジプトアラビア語」とは、特に文語もしくは口語のアラビア語に限定せず、エジプト人が日常生活の中で使用するアラビア語エジプト方言のことを表している。

日本語とアラビア語の人称詞に関する研究は数多くあるが、人称詞を敬語の観点から取り扱った研究は、日本語の場合は、そのような研究が少なからずあるのに対し、アラビア語の場合は筆者が調べた限りでは見当たらない。アラビア語には、元来「敬語」や「待遇表現」といった言語の文法項目がないのが事実であり、当然そのような課題にする直接的な研究がない。しかし、アラビア語には、体系化していない待遇表現および待遇表現と関連する文法項目があり、そのような項目に関する研究があると考えられるため、その詳しい調査が今後必要である。日本語の人称詞を敬語の観点から取り扱った主な研究として、山田(1924)『敬語法の研究』、小林(1936)『日本文法史』、辻村(1968)『敬語の史的研究』、そして三輪(2000)『人称詞と敬語』などが挙げられる。

1.2 アラビア語の特徴と「敬語」の概念にあたる「待遇表現」について

現代アラブ世界には、メディアや学校教育などの正式な場面において、教師や作家、或いはジャーナリストなどの知識人たちによって使われる「現代アラビア語」があるが、この「現代アラビア語」を「古典アラビア語」と比較してみると、単語や慣用句の意味が少し相違していても、語構成や文法の面の基礎的で重要な側面では変化が認められず、クルアーンのアラビア語が文法の規範になっている。これと異なるアラビア語が誤用だとされているため、クルアーンのアラビア語を学習の目標とする場合が多い。ここで述べるアラビア語の例文などの中に現代アラビア語で、改まった場面などで使用される正則アラビア語であるが、その中に古典のアラビア語にはなかった単語や表現とその用法が含まれることがあることを強調しておきたい。

また、アラビア語は性と数の区別がある言語として広く知られている。アラビア語において名詞の枠に入る語は、動詞、副詞、助詞を除くものの全てが名詞扱いになる。アラビア語名詞の特徴的な規則は、文中での役割や文章全体の意味に大きな影響を与える格変化である。格変化は語尾の母音記号によって示され、主格、対格、そして属格の三つの基本3段変化になっている。わかりやすく格変化の機能を説明してみると、主格が日本語の「が」、対格が「を」、属格あるいは所有格が「の」と、前置詞が来た場合の「へ、で、に」に当たると言える。そのほかにも、限られたグループの名詞に二段変化する変形があり、文での名詞の役割を決定する機能を持っている。また、動詞の活用によって、その動詞の動作主またはそれに代わる人称代名詞の性や数などが決まるという便利な特徴もある。

本研究でのアラビア語の扱い方について次のように説明したい。アラビア語には、正則の言葉と、口語の言葉の二種がある。前者がアラブ諸国で使用されるアラビア語の書き言葉で、聖典クルアーン、現代の文学、学校教育などで使われる正式なアラビア語のことを指す。これに対して後者は、一般の人々の間で使われる話し言葉で、正式なアラビア語とは大きく変わらない場合が多いが、発音の違いや文法の変化が加えられた程度の違いを持つ言葉である。本研究ではその違いに特に目を向けず、研究の対象にするのは、エジプトのアラビア語(正則・口語も含めて)である。

アラビア語は、日本語の敬語ほど、独立した項目や体系化した規則を持った「敬語」がないのが事実である。「敬語」というのは、日本語の独特な特徴の一つであると言われがちであるが、必ずしも敬語が日本語固有のものであるとは限らない。蒲谷(2006)は、「敬語のことを日本独自のシステムであり、ほかの外国に存在しないものである」と勘違いする日本人も外国人もがいるが、それは誤解であるとしている。更に、「敬語というのが封建的で必要悪である」とする考え方もあるが、それも根強い誤解であるとも言えるとも述べている。

上述のように、アラビア語には、敬語という独立した項目そのものがないものの、相手への尊敬や人間関係を表す様々な待遇表現が存在する。その表現の中に、社会文化的な規定による規則性を持った表現もあれば、地域の固有文化や言語習慣などによって変化する表現や言い方もある。このような表現に関する研究活動がそれ程行われていないのが事実であることが、本研究の困難な点であると同時に、きっかけの一つでもあることをここで強調しておきたい。今後は、本課題について研究・調査を徹底的にすることにより、アラビア語側の人称・呼称表現の待遇的特徴と機能の研究の有無について明らかにしたいと考える。

1.3 エジプトにおける言語と社会との関係について

ロビンズ1974では、我々の言語使用に、次の三つの要素が影響を与えると述べている。一つ目は、意味である。我々はなんらかの意味を伝達するために語や文を選ぶのである。二つ目は、社会組織で、話し手の社会的身分やクラス、あるいは、話す状況が固苦しいものかどうかといった社会的変数である。三つ目は、話し手の間の個人差である。

エジプトは、文明の発祥地として歴史が長く、多くの文明と多様な文化を受け入れ、現在までそれらの文化・文明の跡が残っている。残っている跡というのは、遺跡だけでなく、社会全体の構成や特徴にもその影響が現れていると言われている。それらの多く文明と文化を経て、イスラーム教が誕生し、エジプトでのイスラーム教の普及に伴いエジプトに移り住むアラブ人が増え続け、そのときから現在に至るまでのエジプトは、人口の大多数がアラブ人でイスラーム教徒のため、アラビア語を母語とするアラブ・イスラーム社会へとなった。

アラビア語は、文語である「フスハー」と呼ぶ正則アラビア語と、正則語とは違う、特定の部族および地域の方言である口語の「アーツミッヤ」の2つに大きく分類される。通常「アラビア語」と呼ばれるのは、正則アラビア語であるフスハーである。これに対して、現代の口語のアラビア語を代表するのは、この「アーツミッヤ」である。文字表記が整い始めた西暦4世紀からの前イスラーム期における多数の詩歌や、西暦7世紀後半から始まったイスラーム教の聖典であるクルアーンなどは、文法規則の参考書として正則アラビア語の代表例である。アラビア語は、特にイスラーム教と密接な関係があるため、社会とのかわりが非常に強いものであると言える。中でも聖典クルアーンは、イスラームにおい

て宗教はもとより文化、思想、社会秩序、生活習慣などに非常に大きな影響力を持っており、クルアーンが記述された当初のアラビア語は現在においても身近な言葉でもある。そのため古典であるはずのアラビア語は、現在のアラブ各国における学校教育やメディアでは、正則アラビア語と区別されずに用いられているのが現状である。更に、日常生活における宗教及びその聖典クルアーンの存在が非常に大きく、人の言動に大きな影響を与えていると考える。

以上のことから、エジプトにおける言語と社会（宗教・伝統・文化等）の特徴とその相互関係のあり方がわかる。本研究では、その言語と社会の関係を表す一例として、呼称表現の使用状況とその呼称表現の待遇的使用について紹介していきたい。

2. 研究の概要

言語、文化そして社会の3要素は常に密接な関係にあり、それぞれの3要素の間には、相互的な影響と変化があると思われる。社会言語学の研究としての本研究は、これらの3要素（言語・文化・社会）の密接な関係から出発している。具体的には、アラビア語の呼称表現の使用状況とその待遇的使用について調べ、分析し、その結果を明らかにすることを目的としている。そして、それらの呼称表現の使用状況と待遇的使用が示す文化・社会の中での背景と機能を読み取り、言語と社会の関係について考えていきたい。

2.1 アラビア語の人称詞と呼称表現の概要

アラブ人は、古くから民族主義で知られおり、それぞれのアラブの民族の姓が長い歴史を持ち、社会的に重要視されているものと思われる。アラビア語には、様々な呼称方法と表現が存在し、名前の表記方法も姓名だけではなく、似た名前の区別などの目的で父親の名前としての「ミドルネーム」のほかに、祖父の名前まで呼びかけに使われる場合もある。しかし最も代表的で一般的な呼称方法は、相手の「名」を使った「²Ya: = 名前および職業名など（+敬称が必要な場合）+よ」（以下に詳しく紹介する）という形式である。

相手の個人の「名」以外に、「姓」、「ミドルネーム」が使いやすく目立った名前の場合や、個人の名前がよく使われる「ムハンマド」などのような名前の場合に、それらの「姓」、「ミドルネーム」のいずれかで呼ばれる場合もある。その場合も敬称が必要な場合であれば、適切な敬称が使用されることになる。

更に、アラビア語の呼称方法には、話し手と聞き手との関係を示す様々な特徴がある。例えば、敬称の有無、そして親近感や甘やかしを示す目的で使用される相手の名前や呼びかけ語の「縮約形」というのも存在している。

² アラビア語には「Ya:」以外に正則の複数の呼称語があるが、日常生活では殆ど使われていない。

2.1.1 アラビア語の人称詞の特徴

アラビア語の名詞と同様に人称代名詞にも、性と数の区別がある。また、独立形と結合形の二種の人称代名詞が存在しており、結合形は動詞や名詞の語尾につくが、独立形は独立した単語としての人称代名詞である。

人称代名詞の性に関しては、1人称には性の区別はないが、2人称と3人称には性の区別がある。また、数の種類は、単数、双数、そして二つ以上の場合の複数の3種類になっている。

A) 人称代名詞の独立形

アラビア語の数の扱いは、1人・1つの場合は単数、2人・2つの場合は双数、そして3人・3つ以上の場合は複数に区別される。独立形の人称代名詞は性および数ごとの語があり、それぞれ定冠詞が付かないが、限定名詞として扱われる。この種の代名詞は殆どの場合主語として文頭にくるが、独立形として述語に来ることもある。その場合は、意味の強調という目的で使われる。だが、人称代名詞が主語としてくるのが基本的な使い方であり、その場合には、普通の名詞扱いで主語・述語の文からなる名詞文が構成される。

表1：アラビア語の人称代名詞独立形

<人を指す代名詞、日本語訳とローマ字表記付き>

人称とその性/数	単数		双数		複数	
	J ³	A	J	A	J	A
1人	私	ana	私たち	nahnu ⁴	私たち	nahnu
2人称男性	貴男	anta	貴男たち	antuma	貴男たち	antum
2人称女性	貴女	anti	貴女たち	antuma	貴女たち	antunna
3人称男性	彼	huwa	彼ら	huma	彼ら	hum
3人称女性	彼女	hiya	彼ら	huma	彼女ら	hunna

B) 人称代名詞の結合形

人称代名詞の結合形は前述のとおり、前置詞の後ろに付く場合が多くあるが、名詞の後ろに付け加えられた場合は所属先の「の」を表す。また、A)の独立形とは違い、結合形の代名詞が動詞に付いた場合に目的語として用いられる。

下記の表では、人称代名詞の結合形の人を指す例を提示する。

³ JはJapanese（日本語）、AはArabic（アラビア語のIPA（国際音声記号）表記を指している。

⁴ ここでのアラビア語の言葉の表記方法について、主にIPA（国際音声記号）によって記されている。

表2：人称代名詞の結合形 <人を指す代名詞>

人称/数	単数		双数		複数	
	J	A	J	A	J	A
1人称	私の/に	-i /-ni	私たち（二人）の/に	-na	私たちの/に	-na
2人称男性	貴男の/に	-ka	貴男たち（二人）の/に	-kuma	貴男たちの/に	-kum
2人称女性	貴女の/に	-ki	貴女たち（二人）の/に	-kuma	貴女たちの/に	-kunna
3人称男性	彼の/に	-hu	彼ら（二人）の/に	-huma	彼らの/に	-hum
3人称女性	彼女の/に	-ha	彼女ら（二人）の/に	-hunna	彼女らの/に	hunna

2.2 呼称表現の種類とその待遇的使用例

アラビア語の呼称方法と表現は、数多くあり、話し手と相手との社会的関係やそれぞれの教育・知識・文化的背景などによって使用される表現及び語が異なってくる。

以下にエジプト現代社会で使用される、アラビア語エジプト方言⁵での多様な状況での呼称表現の種類と方法を紹介したい。以下の呼称表現の例には、呼びかけ語の（Ya:〜=名前等+よ）⁶がすべての例で使われているが、エジプト方言では、削除して呼びかけを行うこともできる。その場合は、呼びかけ語を使わず、直接相手の名前や敬称、役職などが使われる。

1. 普通の一般的なレベルでの呼びかけの場合 (Ya+人名) :

Ya Tarō

太郎よ、

2. 相手を叱ったり怒ったりする（大人を子ども扱いする）場合 :

Ya Walad= おい、男の子⁷よ

Ya: Ahmaq= おい、このバカ

⁵ ここでのエジプトアラビア語の例は、筆者が作成したものであり、主にエジプトアラビア語のカイロ方言の例である。

⁶ 正則語では、「Ya:=ヤー」として長音が入るが、口語では、長音を入れずに、「Ya=ヤ」だけで発音することが多い。

⁷ 呼称表現の例での太字の部分は、人称・呼称の表現を指している。

3. 親しく呼びかけたり話しかけたりする場合：

Ya Waladi/Ya bni Ya binti

我が(男の)子よ 息子よ 我が娘よ

4. 相手が目上、年上、もしくは、初対面で教育を受けているように見える場合：

Ya Usta:z (Tarō) Anta (ḥadṣret-a-k)

(太郎)さん/先生よ、 あなた(あなた様)

5. 相手が裁判官、警察官・軍の将校など：

Ya (Tarō) Beih/Ba:sha, (ḥadṣret-a-k/Saḥadt-a-k/Siyadt-a-k)

太郎様よ、 あなた(あなた様)

6. 家族や親戚の呼びかけの場合：

Ya Ba:ba /Abu:yah:/Waldi, Ya Ma:ma/ Ummi, Ya Ḥammi/ Ya xa:li, Ya geddi

パパ/父よ、 ママ/母よ、 叔父よ、祖父よ

7. 社会的な呼びかけの方法：

— Ya Mada:m=奥さんよ(既婚の女性)

— Ya anisah=お嬢さんよ(未婚の女性)

— Ya ḥagg / ḥaggah=巡礼者よ(男・女)(聖地メッカへ巡礼に行ったことがある)

— Ya Ḥamm=おじさんよ(一般の中年男性)

— Ya Abu/Umm=(長男/長女の名前+)の父、母よ

— Ya Mistar=ミスターよ(英語などの教師など)

8. 職業名での呼びかけの場合：

Ya Ba:sh Muhandis / Ya ḥadṣret ezza:bits/ Ya metr/ Ya Ustṣā/ Ya ḥadṣret elḤomdah

エンジニア様よ、 警察官様よ、 先生(弁護士)よ、運転手よ、 村長様よ

9. 相手が大臣などの高官、管理職などの場合：

Ya Saḥa:det/Maḥa:li: elusta:z/edduktu:r, Antum (ḥadṣret-a-k)

高位である(先生/博士)よ、

あなた方(あなた様)

10. 相手が宗教師の場合：

Ya Fadṣe:let eḤḥe:x, Anta/Antum (Fadṣelt-a-k)

宗教師の美德よ、 あなた(方)(あなたの美德)

11. 相手が大統領、首相等の役職の場合：

Ya Faxa:met arraʔi:s, Antum/ (Fax:mt-a-k/ Fax:met-kum Saʕadt-a-k/ Saʕadet-kum
Siyadt-a-k / Siyadet- kum)

大統領の尊厳 よ、 あなた方⁸ (の尊厳、閣下、威厳)

12. 相手が国王・王子様等の場合：

Ya: Sa:hib issumuww (ilmalakiyy) Ya: Sumuww elami:r) Sumuww-a-k/ Sumuww-u-kum

殿下、高位であるあなた様、あなた方 (殿下)

上記の呼びかけの表現は、あくまでも現代のアラビア語、特にエジプト方言で使われる表現であり、必ずしも、昔ながらの文語のアラビア語で使われていた表現とは限らない。そのため、上記の表現には、現代アラビア語としてトルコやペルシアや英語などの外国語・外国の文化からの由来の表現も含まれている。また、場合によっては、口語の表現であっても、文語の中でも使用されることもある。その場合は、発音方法が文法規則に沿って変化し、書き言葉として使われることもしばしばある。

また、上記の表現以外に、敬称や尊敬を表す言葉そのものを使わなくても、相手に対する評価、賞賛などの意味を表す誇張、感謝、そして祝福等の意味を伝えることができる。これによって、相手への呼称表現の待遇的な使い方と言える呼称の表現方法も広く使われる。このような方法は、特に宗教的な教えをもとにした神様へのお祈り、あるいは神様及び預言者への賞賛、感謝等の際に用いられることが多い。

3. アンケート調査の概要とその結果分析

本アンケート調査では、実際に母語話者が使用する呼称表現とその使用における言語・文化・社会の特徴と機能を明らかにしようとしている。本アンケートは、エジプト人アラビア語母語話者 78 人を対象に、2014 年 8 月から 11 月にかけての間に予備調査として行われた。以下にその結果を紹介する。今回の調査結果を深く分析し、今後の本調査に役立たせたいと考えている。更に、アンケート調査だけでは明らかにできない部分、得られない情報もあることが考えられるため、今後のメインのアンケート調査終了後には、被調査者の一部に対して、インタビュー調査も実施する予定である。

⁸ 本稿での「あなた方」は、単数の相手に対して使う場合、単数の相手への複数形の使用によって尊敬を表すことになっている。

3.1 アンケートの目的と内容

まずは、本アンケート調査の主な意義と目的を紹介したい。本アンケートは、予備調査としてアラビア語を母語とするエジプト人を対象に、呼称表現の種類と方法を調べるためのものである。そして、その呼称表現の待遇表現としての特徴とその社会的な意味合いを被調査者の回答から読み取り、今後の本調査に役立たせたいと考えている。

質問項目はすべて選択可能な質問になっており、選択可能な項目以外の回答があった場合には、「その他」という項目も立てている。回答方法は、インターネット経由と、直接回答者に渡された質問用紙という 2 つである。インターネット経由で回答してもらったのは 48 人で、残りの 30 人には質問用紙に回答してもらった。

本アンケートの主な項目は、大きく分けて以下の 3 点にまとめられる。

1. 被調査者に関する基本情報（年齢層、職業、結婚歴など）。
2. 様々な場面での呼称表現と方法、そしてその待遇の使用とそれに対する回答者の意識（相手を呼ぶときの敬称の使用状況など）。
3. 親族・職場の呼称表現が使用される環境と条件、そしてそれによって異なる呼称表現の種類とレベルに関する質問。

以上の調査項目について、どのような呼称表現が使われ、どのような待遇表現としての特徴を持っているかを解明するために、それぞれの質問の回答を複数選択可能なものに設定している。「その他」の項目は、インターネット版の場合は、回答者がその詳細を書くことになっている。

3.2 アンケート調査の結果と分析

ここでは、アンケート調査で得られた結果として、アンケート回答者に関する基本情報、アンケート回答者が使用する、職場や親族の様々な相手に対する呼称表現及びそれに伴う待遇表現の使用に関する回答結果を詳しく紹介する。

アンケートの結果は、大きく分けて次の 3 点にまとめる。

- ① アンケート回答者に関する基本情報
- ② 職場における呼称表現の使用状況
- ③ 親族呼称表現の使用状況

① 回答者に関する基本情報

回答者の男女別の割合は、男性が 76% で、女性が 24% である。年齢層については、20 代が最も多く、62% を占めていて、その他の年代について、20 代以下が 15%、30～40 代が 17% を占めている。最も少なかったのは、50～60 代で 6% である。今回は、特に若者が多かった理由について、若者利用者が多いインターネット版の回答者が全回答者数の 6 割以上を占めていることが挙げられる。

回答者の結婚歴については、若い回答者が多かったため、既婚者の方が独身者より少なく、4割を占めており、独身者が残りの6割近くを占めている。回答者の職業について、公務員や民間企業の仕事をしている回答者が4割以上になっている。その他の職業は、自営業が3割、学生が1割近くで、無職が16%も占めている。このように、若者が多いことによる影響が大きく、国の経済的問題などもあり、特に無職や自営業の高い割合に影響していると考えられる。仕事をしている回答者の仕事でのポジションについても聞いたみたが、最も多かったのは、一般レベルの職員としての回答者が6割近くを占めており、管理職の回答者が1割で、両方の間の中級レベルの管理職の回答者が2割を超えている。

以上が本アンケート回答者に関する基本情報で、回答者に関するすべての情報が以下に紹介する呼称表現の結果とかかわりを持っているため、参考にしながら呼称表現の使用状況を紹介し分析していく。

② 職場などにおける呼称表現の使用状況

ここでは、職場（回答者が学生の場合は学校）等のような場面での呼称表現について聞いた質問とその回答を紹介する。呼称表現とその方法の回答結果を次の表3でまとめる。

まずは、呼称表現使用時に待遇表現としての、(～の尊厳=Saġa:det/Siya:det～) や (～なさる/して下さる=Yetfaddsal/Yetkarram) を一般に使うか否かの質問の回答で、「いつも使う」が1割近くの約9%で、「全く使わない」が17%だった。しかし、最も多かった回答は、「時々使う（限定された、年上・先輩や初対面の場合など）」で7割以上を占めている。これから詳しく様々な表現の使用状況を見ていくが、待遇表現としてのこの表現を使用する人が8割以上実際にいることがわかる。この結果を受けて考えられるのは、多くの人が、必要に応じて呼称表現とそれに伴う待遇表現の使用を意識的に考え、適切にその表現の使用を適切な相手に対して使用しようと心掛けていることがわかる。

具体的な呼称表現の使用場面の一つである職場、(学生の場合は学校) について、表3にあるように、「同年代、仕事での近いポジション及び同僚、同輩をどう呼ぶか」という質問を行った。この質問への回答では、「敬称を使わず、直接名前(個人名など)で呼ぶ」が最も多くほぼ半分を占めている。次に近い割合で多かったのは、「尊敬を表す敬称(職名など+個人名)を使って呼ぶ」と「親しみを表すあだ名や甘やかしの言葉を使う」で、それぞれがほぼ2割を占めている。それら以外の少数の回答には、「庶民的敬称(巡礼者=hagg/haggah や Abu〇〇・Umm〇〇=長男・長女の名前+の父親・母親)」や、「その他」(同年代でも、相手との関係によって、使用する表現が異なる)もあった。

一方、同じ職場の場面で、相手が年上、上司、先輩などの場合には、最も多かった回答が、「尊敬を表す敬称、職名などを使って呼ぶ(貴方様=hadret-a-kなどを使う場合もある)」で約7割を占めている。それ以外の回答には、「庶民的敬称(巡礼者=hagg や息子・娘の名前+のお父さん・お母さん=Abu〇〇・Umm〇〇)」や「尊敬のレベルがより高い(～の尊厳=Saġa:det/Siya:det～など)の表現を使う」が挙げられ、それぞれ1割を占めている。

表3 職場（学生の場合は学校）での呼称表現

呼称表現の種類	同僚及びそれ以下の相手	上司、先輩、年上、管理職の相手
個人名のみ	47.4%	—
敬称（職名など）＋個人名	23.1%	74.4%
庶民的表現（巡礼者=hagg/haggah や Abu○○・Umm○○=長男・長女の名前＋の父親・母親）	2.6%	11.5%
尊敬のレベルがより高い（～の尊厳= Saʿa:det/Siya:det～など	25.6%	12.8%
その他	1.3%	1.3%

③ 親族呼称表現の使用状況

親族呼称については、家庭内の家族メンバー、そして家庭外の他の親戚の別で回答してもらった。以下の4～9の表では、様々な状況での親族呼称の使用状況に関する結果をまとめる。

家庭内について、「自分より同年代もしくは年下の兄弟や親戚をどう呼ぶか」という質問の回答で最も多かったのは、「家庭内では、あだ名や親しみを表す表現を使う（他人の前では個人名を使う）」が半分に近い割合である。その他の回答は、個人名や年下の兄弟などとの年齢の差を示す表現などを使うという結果になっている。

また、子供がいる親に、自分の子供をどう呼ぶかについて聞いたところ、「他人の前では、個人名で呼ぶが、それ以外の普通の時は、あだ名や甘やかしを表した呼びかけ語を使う」が最も多く、半分近くの45%であった。それ以外の回答には、「あだ名や甘やかしを表した呼びかけ語」と「個人名を使って呼ぶ」の回答がそれぞれ約2割を占めている。「少年よ、息子よ、娘よ＋個人名」は約1割を占めている。（表4参照）

両親をどう呼ぶかという質問への回答では、表5にあるように、「お父さん、お母さん、あるいはパパ、ママ及び異なる方言でのそれに似た言い方」が最も多く、7割以上を占めている。残りの3割を占めたのが「庶民的敬称（巡礼者=hagg/haggah や Abu○○・Umm○○=長男・長女の名前＋の父親・母親）」である。更に3人称の使用時における待遇表現の使用状況を探るために、表6にあるように「両親のことについて他人に話すとき、両親のことをどう指すか」という質問をしたところ、回答者の多くは、「お父さん、お母さん、あるいはパパ、ママ及び異なる方言でのそれに似た言い方」を選択し、当質問の回答者数の約55%を占めた。次に多かった回答は、「庶民的敬称（巡礼者=hagg/haggah や Abu○○・Umm○○=長男・長女の名前＋の父親・母親）」であり、4割以上を占めた。

表4 親族呼称表現の使用状況（親→子供）

呼称表現	親→子供
個人名	23.1%
(Ya Walad/Bint=(男女の)少年よ) や (Ya bni/binti=我が息子・娘よ) で呼ぶ (この表現と共に、個人名を使う場合もある)	10.2%
他人の前では、個人名で呼ぶが、それ以外の普通の時は、あだ名や甘やかしを表した表現を使う	44.9%
いつもあだ名や甘やかしを表した表現を使う	21.8%
その他	—

表5 親族呼称表現の使用状況（子供→親）

呼称表現	子供→親
お父さん、お母さん、あるいはパパ、ママ及び異なる方言でのそれに似た言い方	64.1%
庶民的敬称（巡礼者=hagg—男性/haggah—女性）や Abu○○・Umm○○=長男・長女の名前+の父親・母親）	34.6%
その他	1.3%

表6 その他、親族呼称表現の使用状況<3人称>（子供→両親のことを指す場合）

呼称表現	その他
父親、母親、あるいはパパ、ママ及び異なる方言でのそれに似た言い方	55.1%
庶民的敬称（巡礼者=hagg—男性/haggah—女性）や Abu○○・Umm○○=長男・長女の名前+の父親・母親）	43.5%
医者やエンジニアなどのような職名（それと共に職名の前に父親・母親を入れたり、職名の後に個人名を使用したりする場合も含める）	1.4%
その他	—

この質問項目の次に、両親及び両親と近い年齢・社会的地位の相手に対して、尊敬を表す敬称・待遇表現：(～の尊厳=Saʿa:det/Siya:det) や (なさる=Yetfaddʿal/Yetkarram) などを使うかどうかについて聞いたところ、「はい」と答えた人が55%で残りの45%の人が「いいえ」と答えた。

夫婦間の呼称表現についても別々に尋ねた。表7と表8にあるように、夫が妻に対して使う呼称表現の回答で最も多かったのは、「家庭内では、甘やかし表現やあだ名などを使い、家族以外の人の前では、個人名を使う」で約45%である。その他に3割を占めた回答は、「ママ、あるいは、子供がいた場合、Umm〇〇＝子供の名前＋の母親」である。同時に女性に対して、「妻が夫をどう呼ぶか」についての質問では、男性への質問の回答とほぼ同じの割合で同じ回答である、「家庭内では、甘やかし表現やあだ名などを使い、家族以外の人の前では、個人名使用」が選択された。次の回答は、「パパ、あるいは、(子供がいた場合) Abu〇〇＝子供の名前＋の父親」で、4割近くを占めている。

表7 親族呼称表現の使用状況（夫→妻）

呼称表現	夫→妻
個人名	17.9%
家庭内では、甘やかし表現やあだ名などを使い、家族以外の人の前では、個人名を使う	43.6%
いつも（家族以外の人の前でも）甘やかし表現・あだ名など	5.1%
ママ、あるいは、(子供がいた場合) Umm〇〇＝子供の名前＋の母親	30.8%
職名や巡礼者 (haggah) など（その後に個人名を入れる場合もある）	1.3%
その他	1.3%

表8 親族呼称表現の使用状況（妻→夫）

呼称表現	妻→夫
個人名	11.5%
家庭内では、甘やかし表現やあだ名などを使い、家族以外の人の前では、個人名を使う	43.6%
いつも（家族以外の人の前でも）甘やかし表現・あだ名など	2.6%
パパ、あるいは、(子供がいた場合) Abu〇〇＝子供の名前＋の父親	38.5%
職名や巡礼者 (hagg) など（その後に個人名を入れる場合もある）	3.8%
その他	—

次に、家庭外の親族、「叔父、叔母、祖父、祖母」などの親族呼称の表現について聞いたところ、圧倒的に多かった回答は、「叔父さん、叔母さん、お祖父さん、お祖母さん（その後に個人名を使う場合もある）」で、9割近く占めている。次の多かった回答は、「(「巡礼者＝hagg/haggah」) や (子供がいた場合) Abu〇〇/Umm〇〇＝子供の名前＋の父親/母親」で1割を占めている。

表9 親族呼称の使用状況 (家庭外の親戚の場合)

呼称表現	親→子供
叔父さん、叔母さん、お祖父さん、お祖母さん (+個人名を使う場合もある)	84.6%
職名など (その後に個人名を使う場合もある)	2.6%
庶民的敬称 (巡礼者=hagg/haggah や Abu○○・Umm○○=長男・長女の名前+の父親・母親)	12.8%
その他	—

また、上記の呼称表現についての質問以外にも、回答者の意識と呼称表現の使用状況をより明確にするために、次の質問について聞いた。「相手が使う表現や敬語の程度を見て、それに対応した表現を意識的に使うようにするか」という質問で、回答者の8割近くが「はい」と答えたのに対し、残りの2割の回答者が、「いいえ」と答えた。また、「回答者の精神状態や相手との関係のあり方が、話の相手(家族メンバー、同僚、同級生)への呼称表現に影響することがあるか」について聞いたところ、回答結果が分かれ、6割近くが「はい」と答え、残りの4割近くが「いいえ」と答えた。この結果を見て言えるのは、本発表で紹介しているアンケートの呼称表現使用が、絶対的なものではなく、社会の中で様々な人間関係や相互認識のもとで行われているということである。また、ここで紹介した様々な呼称表現が異なる背景には、様々な条件と人間関係が存在していることがうかがえ、それぞれの場面と相手に適した表現が使用されていることがわかる。

3.2 アンケート調査結果のまとめ

本アンケートでは、エジプトアラビア語における人称詞・呼称表現とその待遇的使用を一例として、言語文化と社会の関係について説明してきた。特にアラビア語の母語話者を対象としたアンケート調査を通して、アラビア語を母語とするエジプト人が使用する様々な場面での呼称表現とその使用状況を明らかにできた。

特に、職場での様々な相手、そして家庭内外の親族呼称表現を具体的に知ることができた。体系的な敬語がないアラビア語でも、尊敬すべき相手がいた場合には、敬語という項目がないものの、様々な待遇的表現を使って自然な会話ができ、社会の中で適切な人間関係の構築ができることが言える。

また、予備調査としての今回のアンケートで得られた詳しい結果とその分析を紹介することによって得られたフィードバックと反省点を整理した上で最大限に活かし、今後の本調査に役立たせたいと考えている。また、このアンケートで得ることができなかった情報などもあると考える。特に、調査者である筆者が本アンケートの質問項目で決めた呼称表現以外に、他の異なった項目があることも考えられる。今後の調査に向けて、このような

調査できなかった項目や得られなかった情報について再確認し、質問項目の追加・削除などを再検討したいと考える。

また、回答者が選んだ回答とその内容について直接回答者の意識を確認する必要がある場合があり、そのために、被調査者の一部に対してインタビュー調査を行うことも極めて重要であると考えます。そして、アンケートの回答方法についても、インターネットや回答用紙の方法、及びその対象者別の配慮が必要な場合があるか否かについても事前に確認したうえで、本調査に進みたいと考えています。

4. 最後に

本研究では、アラビア語の人称・呼称の表現及びその待遇的使用について紹介した。そして実際の調査を通してその表現の特徴と使用状況などを明らかにしたうえで、その背景にある言語と社会の関係について説明した。特にアラビア語の母語話者を対象としたアンケート調査では、エジプト人が使用する様々な場面での呼称表現とその使用状況を明らかにできた。そして職場での様々な相手、そして家庭内外の親族呼称表現を知ることができた。このような具体的な呼称表現の使用状況をもとに体系的な敬語がないアラビア語でも、尊敬すべき相手がいた場合には、様々な待遇的表現を使って自然な会話ができ、社会の中で適切な人間関係の構築ができるということが、現代アラビア語とアラブ社会の実情であることも確認できた。

最後に、予備調査としての今回のアンケートの結果とその分析を紹介することによって得られたフィードバックと反省点を整理したうえで最大限に活かし、今後の本調査に役立たせたいと考えています。

本稿で紹介したのは、エジプト社会での呼称表現の幅広い範囲についての調査であるが、今後は対象を絞り、親族呼称に焦点を当て、家庭内外の親族間で使用される呼称表現とその待遇的使用について徹底的に調べ、詳しい特徴と機能を明らかにする。そして、言語・文化・社会に関するより正確で現実的な相互関係の明確化を目指し、研究を続けたいと考える。

資料:

エジプトアラビア語における呼称表現の使用状況に関するアンケートのアラビア語版とその日本語訳

استقصاء حول أساليب النداء والمخاطبة التي يستخدمها المتحدث تجاه المستمع في مصر

فئة السن

- تحت العشرين
- العشرينات
- من الثلاثينات - حتى الأربعينات
- من الخمسينات - حتى الستينات
- من السبعينات فما فوق

النوع

- ذكر
- أنثى

الحالة الاجتماعية

- متزوج
- أعزب

ما هو آخر مؤهل دراسي حصلت عليه يمكن اعتبار الدرجة العلمية المسجل بها أو المتوقع الحصول عليها قريبا هي آخر مؤهل

- ثانوية عامة أو دبلوم ثانوي فما أقل
- بكالوريوس / ليسانس / معهد متوسط
- دراسات عليا (ماجستير)
- دراسات عليا (دكتوراه)
- أخرى:

حول تفاصيل الخلفية التعليمية: ما نوع المدارس التي درست بها حتى الثانوية العامة

- حكومية
 تجريبية / خاصة
 لغات
 أخرى:

لمن تخرجوا من الجامعة أو الدراسات العليا: عن طبيعة الجامعة التي تخرجت منها

- حكومية
 خاصة
 جامعة أجنبية داخل مصر
 أخرى:

حول بيئة الميلاد - النشأة - الإقامة يمكن اختيار الثقافة الغالبة عليك في أساليب الكلام (ليس بالضرورة اللهجة)

- حضر (المدن الكبرى مثل القاهرة الكبرى والإسكندرية أو المدن الكبرى بالمحافظات)
 ريف (المحافظات الشمالية مثل الدلتا والقناة وغيرها - مدن متوسطة وصغرى وقرى..)
 الصعيد (المحافظات الجنوبية - مدن متوسطة وصغرى وقرى..)
 غير ذلك (كالمصريين المولودين أو الناشئين خارج مصر)
 أخرى:

ما نوع أو طبيعة الوظيفة أو المؤسسة التي تعمل بها، ولمن ليست لديه أية وظيفة يُرجى اختيار "لا أعمل"

- وظيفة حكومية
 وظيفة بشركة أو مؤسسة خاصة
 أعمال خاصة/حرة
 طالب
 لا أعمل
 أخرى:

ما هو مستوى أو درجة الوظيفة (للموظفين فقط) ، ولمن ليست لديه أية وظيفة يُرجى اختيار "لا أعمل"

- موظف عادي
- ذو منصب إداري/رئاسي متوسط
- ذو منصب إداري عالي كرئيس أو عضو مجلس إدارة الشركة أو المؤسسة أو ما شابه ذلك
- أعمال حرة غير مرتبطة بمستويات إدارية
- لا أعمل

أخرى :

حول أساليب النداء والمخاطبة في بيئة العمل/الدراسة 1 : كيف تخاطب الزميل /الصدیق) المتقارب معك في السن والموقع) في

العمل/الدراسة أو غير ذلك يُرجى اختيار الإجابة للأساليب الأكثر استخداما

- بالاسم الشخصي (أو اسم الأب أو العائلة) فقط بدون أية ألقاب
- باستخدام كلمة احترام مثل مهندس/دكتور (حسب المهنة) أو غير ذلك (وقد يتبعها اسم الشخص)
- ألقاب اجتماعية مثل كلمة حاج/ة (وقد يتبعها اسم الشخص) أو أبو/أم فلان(اسم ابن/ابنه لو كان لديه) أو غير ذلك
- باسم للتدليل أو أسلوب للتعبير عن الود والقرب

أخرى :

حول أساليب النداء والمخاطبة في بيئة العمل/الدراسة 2 : كيف تخاطب الزميل الأكبر سنا وخبرة، أو الأعلى مركزا أو سنا في

العمل أو الدراسة أو المدير المتوسط أو الشخص الكبير في السن عموما يُرجى اختيار الإجابة للأساليب الأكثر استخداما

- بالاسم الشخصي (أو اسم آخر كاسم الأب أو العائلة) فقط بدون أية ألقاب
- باستخدام كلمة احترام مثل مهندس/دكتور (حسب المهنة) (وقد يتبعها اسم الشخص، أو كلمة حضرتك أو ما شابهها)
- باستخدام كلمة مثل حاج/ة (وقد يتبعها اسم الشخص) أو أبو/أم فلان(اسم الابن/الابنة لو كان لديه) أو غير ذلك
- باستخدام كلمات أكثر احتراما مثل سيادة/سعادة.. أو ما يشبههما

أخرى :

هل تستخدم عموما الكلمات أو الأفعال المعبرة عن الاحترام مثل سعادة/سيادة/فضيلة أو يتفضل (ب) / يتكرم (ب) .. أو غيرها

- نعم أستخدمها دائما في كل الأحوال
- نعم أستخدمها في حالات مثل من هم أكبر سنا ومكانة أو الغرباء فقط
- لا أستخدمها أبدا، ولا أفكر في الأمر مهما كان من أتحدث معه

أخرى :

بالنسبة لمخاطبة أفراد نفس الأسرة 1 : كيف تخاطب الإخوة والأخوات والأقارب في نفس السن تقريبا أو أصغر يُرجى اختيار الإجابة للأساليب الأكثر استخداما

- باستخدام الاسم الشخصي فقط دائما
- باستخدام اسم للتدليل داخل الأسرة والاسم الشخصي أمام الآخرين
- استخدام كلمة للتعبير عن فرق السن في حالة الأصغر سنا مثل يا ولد / يا بنت ، يا ابني/بنتي.. أو غيرها بالعامية إن وجد
- أخرى :

بالنسبة لمخاطبة أفراد نفس الأسرة 2 : لمن لديه أبناء، كيف يخاطب الأب أو الأم أبناءهم يُرجى اختيار الإجابة للأساليب الأكثر استخداما (من ليس لديه أبناء يمكنه اختيار أكثر إجابة يـ/تستخدمها معه الأب/الأم)

- بالاسم الشخصي مباشرة في كل الأحوال
- بكلمة مثل: يا ابني/بنتي ، يا ولد/بنت (وقد يصحبها الاسم الشخصي)
- بالاسم الشخصي أمام الآخرين فقط، وباسم للتدليل أو التعبير عن الود بعيدا عن الآخرين
- باسم للتدليل أو التعبير عن القرب والود في كل الأحوال
- أخرى :

بالنسبة لمخاطبة أفراد نفس الأسرة 3 : كيف تخاطب الأب والأم يرجى اختيار الإجابة الأكثر استخداما

- أبي/أمي أو بابا/ماما، أو ما يشبهها باختلاف اللهجات
- كلمة حاج/ة، أو أبو/أم فلان/ة أو ما شابه ذلك
- باسم المهنة مثل مهندس/دكتور ... (بحسب المهنة) مع الاسم الشخصي
- أخرى :

عند الحديث عن الأب والأم أمام الآخرين: كيف تشير إلى الأب والأم في الكلام يرجى اختيار الإجابة الأكثر استخداما

- الوالد/الوالدة أو أبي/أمي أو بابا/ماما، أو ما يشبهها باختلاف اللهجات
- الحاج/الحاجة أو ما يشبهها من الألقاب الاجتماعية
- الوالدة/ة أو أبي/أمي ومعها اسم المهنة مثل مهندس/دكتور ... (بحسب المهنة) مع الاسم الشخصي
- أخرى :

عند مخاطبة أفراد نفس الأسرة 4 : في حالة الأب والأم أو من في مقامهما من الأقارب: هل تستخدم كلمات للاحترام مثل حضرتك، تتفضل/تتكرم أو ما شابهها

نعم

لا

أخرى:

بالنسبة للأزواج: كيف يخاطب الزوج زوجته يمكن لغير المتزوجين الإجابة بأكثر إجابة يستخدمها الأب تجاه الأم

بالاسم الشخصي فقط دائما

اسم للتدليل بعيدا عن الغرباء فقط، والاسم الشخصي (أو غيره) أمام الغرباء

اسم للتدليل دائما حتى أمام الغرباء

كلمة ماما / أم فلان (في حالة وجود أبناء)

باسم المهنة أو كلمة حاجة أو غيرها من الألقاب (وقد يصحبها الاسم)

أخرى:

بالنسبة للزوجات: كيف تخاطب الزوجة زوجها يمكن لغير المتزوجين الإجابة بأكثر إجابة يسمعونها يستخدمها الأب تجاه الأم

بالاسم الشخصي فقط دائما

اسم للتدليل بعيدا عن الغرباء فقط والاسم الشخصي (أو غيره) أمام الغرباء

اسم للتدليل دائما حتى أمام الغرباء

كلمة بابا / أبو فلان (في حالة وجود أبناء)

باسم المهنة أو كلمة حاج أو غيرها من الألقاب (وقد يصحبها الاسم)

أخرى:

عند الحديث عن الزوج والزوجة أمام الآخرين: كيف تشير إلى الزوج أو الزوجة في الكلام يرجى اختيار الإجابة الأكثر استخداما

ماما/بابا أو أبو/أم فلان (في حالة وجود أبناء)

الحاج/الحاجة أو (في الإشارة إلى الزوجة: الجماعة/الأولاد أو المدام) أو ما يشبه ذلك من الألقاب الاجتماعية

زوجي/ زوجتي (أو ما يشبهها) ويصحبها اسم المهنة مثل المهندس/الدكتور ... (بحسب المهنة) مع الاسم الشخصي

بالاسم الشخصي دائما

باسم للتدليل أو للتعبير عن الود والقرب

أخرى:

بالنسبة لمخاطبة الأقارب: كيف تخاطب الأعمام والأخوال والأجداد أو من في مقامهم يُرجى اختيار الإجابة للأساليب الأكثر

استخداما

- كلمة عم/ة أو خال/ة أو جدة (وقد يليها الاسم الشخصي)
- باللقب كـ مهندس/دكتور (حسب المهنة) وقد يصحبها الاسم مع استخدام كلمة حضرتك
- كلمة مثل حاج/ة أو أبو/أم فلان/ة..

أخرى :

هل تؤثر الحالة المزاجية لك أو طبيعة العلاقة التي تربطك بمن تخاطبهم من أفراد الأسرة أو الزملاء أو غيرهم على أساليب النداء

والمخاطبة تجاههم

- نعم
- لا

أخرى :

هل تقوم بتغيير لغة وأسلوب النداء والمخاطبة بناء على مستوى لغة وأسلوب الطرف الآخر معك تحديدا في استخدام لغة الاحترام

وخاصة مع من هم أقرب أو أقل منك سنا ومكانة

- نعم
- لا

أخرى :

エジプトアラビア語における呼称表現の使用状況に関するアンケート調査（日本語訳）

年齢層

20歳未満 20代 30～40代 50～60代 70代以上

性別

男性 女性

結婚歴

既婚 未婚

学歴（最終学位）

高等学校以下 学士 修士 博士 その他

出身学校及び大学について

国公立 私立 外国系（国内外の外国の学校及び大学） その他

生まれ育った地域について

都会 田舎 その他の固有の文化や伝統を持つ地方

仕事に関する情報について（職種）

公務員 会社員 自営業 学生 無職 その他

仕事があると答えた場合、仕事でのポジションについて

- 一般の職員・社員
- 中級の管理職
- 高級の管理職
- その他

職場／学校などでの呼称表現について（その1）

同年齢、近いポジションの同僚や同輩をどう呼びかけるか

- 敬称を使わず、直接名前（個人名など）で呼びかける
- （名前の後に）尊敬を表す敬称、役職名などを使って呼びかける
- 庶民的敬称（「巡礼者=Hagg」や「息子・娘の名前+のお父さん・お母さん=Abu○
○・Umm○○」）
- 親しみを表すあだ名や甘やかしの言葉を使う
- その他

職場／学校などでの呼称表現について（その2）

年上、もしくは自分より上のポジションの上司や先輩をどう呼びかけるか

- 敬称を使わず、直接名前（個人名など）で呼びかける
- （名前の後に）尊敬を表す敬称、職名などを使って呼びかける（または、貴方様=
Hadratuk-a も使う）
- 庶民的敬称（「巡礼者=hagg」や「息子・娘の名前+のお父さん・お母さん=Abu○○・
Umm○○」）
- 尊敬の程度がより高い（の尊厳=Saḥa:det/Siya:det など）の表現や言葉を使う
- その他

一般的に尊敬を表す待遇表現について

（～の尊厳=Saḥa:det/Siya:det）や（なさる、してくださる=Yetfaddṣal/Yetkarram）
を使うか

- はい、いつも使う
- 時々使う（限定された、年上・先輩や初対面の場合など）
- いいえ、使わない（どんな場合でも使おうと思わない）
- その他

家族・親族呼称について（その1）

自分より同年代もしくは年下の兄弟や親戚をどう呼びかけるか

- いつも直接的に個人の名前（下の名前）のみを使って呼びかける
- 家庭内では、あだ名や親しみを表す言葉を使う（他人の前では、個人名を使う）
- 年下や弟などのような場合には、年齢の差を示す言葉（Ya Walad/Bint=少年よや
Ya ibni/Binti=我が息子・娘よ）を付けて呼びかける
- その他

家族・親族呼称について（その2）

子供がいる父親・母親は自分の子供をどう呼びかけるか

- いつも直接的に個人の名前（下の名前）のみを使って呼びかける
- （Ya Walad/Bint=少年よや Ya ibni/Binti=我が息子・娘よ）で呼びかける（この表現と共に、個人名を使う場合もある）
- 他人の前では、個人名で呼ぶが、それ以外の普通の時は、あだ名や甘やかしを表した表現を使う
- いつもあだ名や甘やかしを表した表現を使う
- その他

家族・親族呼称について（その3）

両親をどう呼びかけるか

- 父親、母親、あるいはパパ、ママ及び異なる方言でのそれに似た言い方
- 医者や庶民的敬称（「巡礼者=hagg」や「息子・娘の名前+のお父さん・お母さん=Abu〇〇・Umm〇〇」）
- 医者やエンジニアなどのような職名（それと共に個人名も使用）
- その他

両親について他人に話すとき、両親のことをどう指すか

- 父親、母親、あるいはパパ、ママ及び異なる方言でのそれに似た言い方
- 庶民的敬称（「巡礼者=hagg」や「息子・娘の名前+のお父さん・お母さん=Abu〇〇・Umm〇〇」）
- 医者やエンジニアなどのような職名（それと共に職名の前に「父親・母親」の言葉を入れたり、職名の後に個人名を使用したりする場合も含める）
- その他

家族・親族呼称について（その4）

両親か近いレベルの年齢・地位の人に対して、尊敬を表す待遇表現（～の尊厳=Safa:det/Siya:det）や（なさる、してくださる=Yetfaddʕal/Yetkarram）を使うか

- はい
- いいえ
- その他

既婚者の男性の場合、妻をどう呼びかけるか

- いつも個人名のみを使う
- 家庭内では、甘やかし表現やあだ名などを使い、家族以外の人の前では、個人名使用
- いつも（家族以外の人の前でも）甘やかし表現・あだ名など
- ママ、あるいは、（子供がいた場合）「子供名前」の母親=Umm〇〇
- 巡礼者（haggah）や役職名、など（その後に個人名を入れる場合もある）
- その他

既婚者の女性の場合主人をどう呼びかけるか

- いつも個人名のみを使う
- 家庭内では、甘やかし表現やあだ名などを使い、家族以外の人の前では、個人名使用
- いつも（家族以外の人の前でも）甘やかし表現・あだ名など
- パパ、あるいは、（子供がいた場合）「子供名前」の父親=Abu〇〇
- 職名や巡礼者（hagg）など（その後に個人名を使う場合もある）
- その他

夫、もしくは妻が他人に奥さん／主人について話す時、お互いのことをどう指すか

- ママ・パパや「子供の名前」のお父さん・お母さん=Abu〇〇・Umm〇〇))
- （「巡礼者=hagg/haggah」）や奥さんのことを家族、こども、家、マダムなどのような表現を使う
- 奥さん／主人で指す（その後に、職名を付け加える場合もある）
- いつも個人名で指す
- あだ名や甘やかし表現で奥さん／主人を指す
- その他

叔父、叔母、祖父、祖母などの親戚をどう呼びかけるか

- 叔父さん、叔母さん、お爺さん、お婆さん（その後に個人名を使う場合もある）
- 職名で呼び、その後に個人名を使う場合もある
- （「巡礼者=hagg/haggah」）や「子供の名前」のお父さん・お母さん=Abu〇〇・Umm〇〇))
- その他

回答者の精神状態や相手との関係が、相手（家族、同僚、同級生など）に対して使う呼称・待遇表現に影響することがあるか

- はい
- いいえ
- その他

相手が使う表現や敬語表現の程度をもとに、それに対して適切な敬語表現を意識的に使うようにすることがあるか

- はい
- いいえ
- その他

A Study about Arabic Forms of Address and their Politeness usage
—Focusing on the results of a questionnaire answered by native Egyptian Arabic speakers—

Mohammad Eshiba

Graduate School of Humanities and Social Sciences, Doctoral Course, Chiba University

Summary:

It is known that there is a big difference in linguistic structure between the Arabic language and the Japanese language. In addition, the social and cultural differences are also big between the two sides. Those differences generate many characteristic features between the two languages and cultures. The topic of this Paper is representing the language and society interrelation of Egyptian Arabic, through the theme of "Personal Pronouns and forms of address". The author has a big interest on this theme and on making a comparison study between Japanese and Arabic about it, and this study is considered as an introductory and preliminary study about this topic for the side of the Egyptian Arabic language.

In this paper, the author is trying to make a brief introduction about the Personal Pronouns and Forms of Address in Arabic, especially in Egypt. This study focuses also on the politeness usage of those forms of address, by introducing some examples of Egyptian Arabic language and with introduction to the questionnaire and the analysis of its results on the types and situations of forms of address.

Through this study, the author aims to clarify the features of the forms of address of the Egyptian Arabic and their politeness features, with explaining the relation between 'Language and Society' according to the results of the questionnaire.

参考文献：

- エシーバ, ムハンマド(2010)『アラビア語母語話者の日本語学習過程における母語干渉の研究』早稲田大学日本語教育研究科修士論文(未公開)
- 蒲谷宏(2006)『敬語表現教育の方法』大修館
- 北原保雄(1981)『日本文法辞典』有精堂出版
- 金田一京助(1995)『日本の敬語』角川新書
- 金田一春彦(1962)『日本語の生理と心理』至文堂
- 小林好日(1936)『日本文法史』刀江書院
- 柴田武(1965)『ことばの社会学』NHK ブックス ; 22
- 田中春美・田中幸子編著(1996)『社会言語学への招待』ミネルヴァ書房
- 辻村敏樹(1968)『敬語の史的研究』東京堂出版
- 新妻仁一(2009)『アラビア語文法ハンドブック』白水社
- バーリング, ロビンズ(高原脩・本名信行 訳)(1980)『言語と文化: 言語人類学の視点から』ミネルヴァ書房
- 三輪正(2000)『人称詞と敬語』人文書院
- 三輪正(2005)『日本語人称詞の不思議』法律文化社
- 山田孝雄(1924)『敬語法の研究』東京實文館

アラビア語文献

- ネーマ・フアード(1973)『アラビア語文法要約』第19版 Nahdat Misr 出版
- ハッサーン・タマーム(1998)『アラビア語、その意味と構造』Alam Alkutub 出版